

記 入 日 2014 年 1 月 16 日

1. 概 要

実践団体名	市原市立白金小学校		
連絡先	0436-21-0207		
プランタイトル	地域とともにすすめる白金防災教育 ～外国人にもわかる「防災行動マニュアル」の作成～		
プランの対象者※1	小学校（低学年・高学年）教職員、保護者、PTA、地域住民	対象とする災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- ・家庭・地域とともに行う防災教育、防災訓練などにより、「自助」「共助」の防災意識を高める。
- ・災害時（地震・津波・風水害など）の基本的な対応の知識・行動を身につける

【プランの概要】

- ・学校・地域合同防災訓練と防災教育集会の実施
- ・中学年児童による地域の「防災安全マップ」づくり。
- ・高学年児童による地域の「防災安全マップ」づくりと「防災行動マニュアル」の作成
- ・家庭で「防災安全マップ」と「防災行動マニュアル『白金防災宝箱』」の確認。（避難経路、避難場所、連絡方法など）
- ・外国人保護者と児童が「防災行動マニュアル」の翻訳に挑戦。（英語、タガログ語、スペイン語など）
- ・授業参観で「防災行動マニュアル」を活用した防災教育授業や懇談会の実施。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・児童が調べたことを基にした、家庭・地域に役立つ『白金防災宝箱』（携帯用防災行動マニュアル）は、外国語翻訳版もあり、今後も活用できる。
- ・家庭・地域と進めたことにより、児童・保護者の防災意識が高まる。
- ・地域に住む外国人への防災意識啓発のチャレンジでもある。

2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	防災教育・避難訓練 等年間計画の確認		避難訓練(4月12日)
5月			
6月	「合同防災訓練」の 立案		市原市一斉防災訓練(引き渡し訓練) 実施(6月11日)
7月	「防災安全マップ」 の作成協力を保護 者に依頼	合同防災訓練の打ち合 わせ(君塚・白金町会代 表・防災課)	夏休みに保護者とともに学区内危険 箇所を調べる(3～6年)
8月		合同防災訓練の最終確 認(消防署・消防団との 連絡調整)	学校・地域合同防災訓練と防災教育集 会(8月31日)
9月			「防災安全マップ」づくり(地区探 検・3年)
10月	「避難所体験訓練」 立案。町会に依頼。		「防災安全マップ」づくり(地区調 査・4年)
11月		八千代市立みどりが丘 小に資料協力依頼	「白金防災宝箱」(「防災安全マップ」 作りと「防災行動マニュアル」の作 成)(5年6年)
12月	「白金防災宝箱」の 家庭での翻訳を保 護者に依頼	翻訳作業の開始 市原市日本語指導協力 員のサポート依頼	避難訓練(火災)12.5 「避難所体験訓練」12月6.7日→中 止
1月			授業参観・懇談会で防災教育実施(1 月31日) 「防災宝箱」翻訳版(英語・タガログ 語)の完成
2月			「防災宝箱」翻訳版(スペイン語)の 完成
3月			避難訓練(地震・津波)3.11

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	合同防災訓練と防災教育集会
実施月日（曜日）	平成 25 年 8 月 31 日（土）
実施場所	市原市立白金小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者（代表者） 氏 名：土田 雄一 所属・役職等：市原市立白金小学校 校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	1 時間+1 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練及びその他（防災教育集会）
活動目的※5	災害を想定した訓練及び防災意識を高める
達成目標	災害時の避難経路・避難場所がわかる。地震や津波以外の災害の予測と対応方法がわかる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1 避難・防災訓練について ・家庭にいるときの地震発生を想定し、地域での第一次避難場所（公園等）に集合（児童・保護者・地域住民） ・第一次避難場所から第二次避難場所へ移動。 ・煙道訓練・消火訓練の体験 ・津波を想定した校舎内への避難訓練 ・各町会ごとに人員確認 2 防災教育集会について（対象 保護者・地域住民） ・防災教育番組「学ぼう BOSAI」の視聴とふりかえり ・防災教育講話（白金小学校長 土田雄一）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・事前に各町会長に当日の動きの資料を配付 ・消防署員による煙道訓練、消火訓練の準備 ・プロジェクター・パソコン（防災教育集会）
参加人数	約 880 人
経費の総額・内訳概要	0 円
成果と課題	【成果】 ・避難経路・避難場所の確認ができた。 ・風水害も想定した防災意識を高めることができた。 【課題】 ・マンネリ化による意識の低下の危惧。 ・実際の災害に即した対応の検討。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	「防災宝箱」(5年)
実施月日(曜日)	10月～1月
実施場所	白金小学校区及び校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：松田直美(5年学年主任) 所属・役職等：市原市立白金小学校 安全主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	約40時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	「防災安全マップ」と「防災行動マニュアル」の作成
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題をつかむ(5時間) <ul style="list-style-type: none"> ・全体の見通し ・学区探検(危険箇所などの確認) 2 調査体験活動①(4時間) <ul style="list-style-type: none"> ・学区の危険箇所・安全な場所・AEDのある場所などの調査 ・基本的な避難行動や避難場所など 3 調査体験活動②(10時間) <ol style="list-style-type: none"> ① やってみよう・作ってみよう(7時間) <ul style="list-style-type: none"> ・非常食の調査と「サバイバルご飯」体験 ・段ボール・新聞紙などを使った防災グッズ ・防災グッズとは ・応急手当など ② 救急法講習会(AEDほか)〈五井消防署〉(2時間) ③ 避難所生活で大切なこと〈市原市保健センター〉(1時間) <ul style="list-style-type: none"> ・避難所での健康管理・新聞紙スリッパを作ろう 4 まとめる(16時間) <ul style="list-style-type: none"> ・防災行動プロモーションビデオの作成 ・模造紙にまとめる。 ・「白金防災宝箱」携帯行動マニュアル作成 5 発信する(5時間) <ul style="list-style-type: none"> ・低学年に伝える(ビデオ・ワークショップ) ・保護者に授業参観で伝える(ビデオ・ワークショップ)
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	市原市五井消防署員・市原市保健センター職員 AEDほか デジタルカメラ・ビデオカメラ
参加人数	63人
経費の総額・内訳概要	約2万円(模造紙代金・「白金防災宝箱」印刷費)



成果と課題	【成果】 <ul style="list-style-type: none">・自分たちの課題を調べたり、体験して課題を解決したりすることによって防災に対する知識と意識が高まった。・「白金防災宝箱」(携帯行動マニュアル)は今後も家庭・地域で活用できるものになった。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">・当初の計画以上に時間がかかった。・「避難所体験訓練」が寒さのためできなかったので、次年度に実施したい。
成果物	「白金防災宝箱」(携帯行動マニュアル)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	「白金防災宝箱」(翻訳版) 英語・タガログ語
実施月日(曜日)	12月～1月下旬
実施場所	市原市立白金小学校・各家庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：高田 成子 所属・役職等：市原市立白金小学校 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	20時間(×2) ※2ヵ国語
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他(協力員との翻訳作業) 家庭
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	英語版とタガログ語版の「白金防災宝箱」を作る
実践方法・進め方(簡条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> 日本語版「白金防災宝箱」(実践プログラム2)をもとに英語版を作成する。 冬休み中に家庭で翻訳作業に挑戦してもらう。(5,6年家庭) 日本語指導協力者やFLTと、英語版の翻訳作業を進める。 英語版をもとにタガログ語版を作成する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> 市原市日本語指導協力者(フィリピン出身)2名 本校に派遣されたFLT 「白金防災宝箱」(日本語版)
参加人数	翻訳協力者4人と各家庭
経費の総額・内訳概要	・約4万円(印刷費2万円・翻訳謝礼2万円)
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語版「白金防災宝箱」の完成 タガログ語版「白金防災宝箱」の完成 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門用語があり、家庭での翻訳がむずかしい 翻訳版については消防署や市の機関などの協力を得てできた。 時間がかかった。
成果物	英語版「白金防災宝箱」・タガログ語版「白金防災宝箱」

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>1 合同防災訓練・防災教育集会 ・昨年度の反省をもとにして、町会関係者と会議をし、計画を立案。その後、消防署・消防団と連絡調整をしながら進めた。</p> <p>2 携帯用防災行動マニュアル（「白金防災宝箱」）の作成 ・「白金防災宝箱」の作成については、5年生の総合的な学習の時間を中心に、調べたり、体験したり、まとめたりした。計画より時間がかかり、「日本語版」の完成が12月中旬にずれこんだ。そのため、家庭での翻訳版は「冬休みの課題」となったが、専門用語などがあり、家庭での翻訳は困難だった。 ・英語版でも専門用語の翻訳はむずかしいため、市原市消防局や市原市日本語指導協力者、FLTの協力を得て、翻訳をすすめることができた。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>1 合同防災訓練・防災教育集会 ・地域と合同の訓練のため、各町会長に学校の教員と同じ「実施要項」を配布。共通理解を図った。 ・同じような時期に各地域で防災訓練があるため、今回は起震車体験ができなかった。実施内容を考えて、準備を進めた。 ・防災教育集会では家庭でも視聴できるEテレ「げんばるマン」や「学ぼうBOSAI」の番組を紹介・活用した。 ・水分補給場所の確保など「暑さ対策」と養護教諭の配置をした。</p> <p>2 携帯用防災行動マニュアル（「白金防災宝箱」）の作成 ・翻訳作業では、協力員と作業を進める準備の時間調整が必要であった。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>1 合同防災訓練・防災教育集会 ・8月31日に実施したため、暑さの影響が心配だったが、体調を崩す方もなく、無事に終了した。 ・地域や関係機関との連携がとれていたため混乱なく実施できた。</p> <p>2 携帯用防災行動マニュアル（「白金防災宝箱」）の作成 ・タガログ語版は、日本語から翻訳するよりも「英語版」をもとに翻訳するほうが進めやすいことがわかった。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	八千代市立みどりが丘小学校	・避難所体験実施資料・ 情報交換など
保護者・ PTAの組織	白金小学校PTA	・「防災マップづくり」 の引率補助。 翻訳協力。
地域組織	君塚連合町会 白金連合町会	・学校との合同避難訓練 の実施。 ・避難所体験訓練の準備。
国・地方公共団体・ 公共施設	市原市防災課 市原市消防局（五井消防署）	・学校・地域防災訓練の サポート ・避難所体験訓練時の毛 布の借用等
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>1 合同避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3度目の実施となり、避難行動・避難場所がよく理解されるようになった。 ・地域・関係機関との連携もよく、風水害を含めた「防災」について考え、防災意識を高めるよい機会となった。 <p>2 携帯用防災行動マニュアル（「白金防災宝箱」）の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の危険箇所や安全箇所を親子で調査し、それをもとに学校でも探検調査し、「防災安全マップ」などを作成したことで、子どもたちの地域防災の意識が高まった。 ・特に、5年生は課題をもって取組み、調べたり、体験したりすることにより、新たな課題をもって発展的に取り組むことができた。 ・今後も役に立つ携帯用防災行動マニュアル（「白金防災宝箱」）を完成することができた。 ・英語版とタガログ語版も作成することができた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>「チャレンジプラン」の達成度は8割程度である。地域との連携強化やめざした成果物（翻訳版「携帯用防災行動マニュアル」）はできたが、「家庭での翻訳」「外国人への防災意識啓発」には課題が残る。</p> <p>1 合同避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携がとれた取組みではあったが、「マンネリ化」が心配である <p>2 携帯用防災行動マニュアル（「白金防災宝箱」）の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が予想以上にかかった。（40時間） ・家庭での翻訳には限界がある ・市や関係機関との連携により翻訳が進んでよかった。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の「フィリピン台風」の際、日本人の子どもの発案で、児童会が中心となり、募金活動を実施した。これまでの取組みの成果であり、「共助」の意識の表れであると感じた。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校と地域の「合同防災訓練」は実施する予定である。 ・「白金防災宝箱」は新入生・家族にも配布予定である。 ・家庭教育学級で「防災教育」も採り上げ、保護者の意識と知識を高める予定である。 ・今回、直前で中止となった「避難所体験訓練」については、季節などを考え、実施を検討中である。

7. 自由記述欄 ※6

1 「白金防災宝箱」の作成を通して

今回の「白金防災宝箱」づくりでは、「携帯用防災行動マニュアル」作成を最終目的としていたが、地区の探検に始まり、「防災マップ」づくり等、防災関係の学習を進める中で、子どもたち



の意欲がどんどん高まっていった。
(特に5年)

計画していたもの（AEDの講習会）だけでなく、自分たちで調べた「段ボールのトイレづくり」やけがをしたときの「段ボール添え木づくり」をしたり、「サバイバルご飯づくり」にチャレンジしたりしたグループもあった。

そして、11月始めに「避難所体験をしてみたい」との声が5年生の子ども

たちからでた。当初の計画になかった取組みであるため、地域の方に相談すると、「子どもたちの気持ち・意欲を大切にしたい」と準備期間が短い中、実施のために動いてくれたのであった。八千代市立みどりが丘小学校からは避難所体験資料もいただいた。結果的には、



修学旅行の翌日の実施であったことや12月の寒い時期であったこと、保護者同伴を参加条件にしたことなどにより、参加者が少なく、直前で中止になってしまったが、子どもたちの意欲を大切にしたい地域の協力に感謝したい。このような取組みこそ、子どもたちの心に残り、



将来「生きてはたらく力」になるのではないかと考える。

2 「フィリピン台風」募金活動

学校が主導の募金活動であれば、ここではとりあげない。日本人の子どもたちの発案から生まれた募金活動だったことが大きな成果である。

子どもたちの約25%が外国にルーツをもつ本校では、フィリピンにルーツをもつ児童は60人を超える。その友達に対して「何かできることはないか」と考え、「募金をしよう」と子どもたちが言い出したことが何よりの成果である。それは、ここまで、さまざまな形で防災教育を推進してきたことの表れだと考える。「共助」の意識を今後も育て、実生活に生かしたい。

3 携帯用防災行動マニュアル「白金防災宝箱」の完成 (A4・左=表面 右=裏面)

子どもたちが調べたことをもとに、教員が9つに折りたたむことができるシート(下図)を作成した。カラー版で地図を加工し、調べた情報を追加したり、わかりやすい表現に直したりしながら作り上げたものである。(成果物として提出)

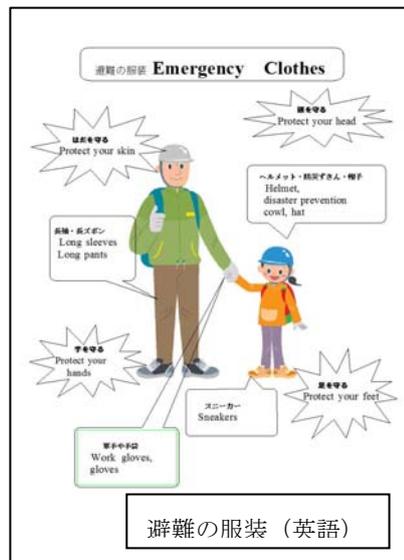


4 翻訳版作成の取組み

日本語版をもとに「英語版」(左下)「タガログ語版」(右下)を完成させたのは大きな成果である。翻訳版は、「日本語併記」で作成した。外国人だけでなく、日本人もこのマニュアルと一緒に理解してもらうためである。

日本語版を英語・タガログ語・スペイン語にばらばらに翻訳すると表現や意味がずれる可能性が高いことがわかった。そこで、まず「英語版」を作成し、その訳をもとに「タガログ語版」を作成すると比較的スムーズに進んだ。

翻訳に際しては、家庭や教員の力だけでは、限界があり、最終的には、市原市の日本語指導協力員(フィリピン出身)やFLTの協力によって完成できた。外部との連携は重要である。



5 教員の「課題解決学習」

チャレンジプランの取組みは、教員の「課題解決学習」であった。防災教育についての知識と技能を高めることができただけでなく、課題解決のプロセスで学ぶことが多い実践であった。担当した教員の達成感は大きかった。